

関西フィルハーモニー管弦楽団 東京特別演奏会



ピアノ
舘野 泉
TATENO Izumi, Piano

©武藤 章



指揮
藤岡 幸夫
関西フィル首席指揮者
FUJIOKA Sachio, Conductor

KANSAI PHILHARMONIC ORCHESTRA



2009

7月1日(水) 19:00開演(18:20開場)
18:40～藤岡幸夫によるプレトーク開催

サントリーホール・大ホール



90th anniversary
of the diplomatic relations
between Finland and Japan
日本・フィンランド修交90周年

特定非営利活動法人

主催：関西フィルハーモニー管弦楽団 / ジャパン・アーツ

特別協賛：ダイキン工業株式会社

後援：フィンランド大使館 / 日本シベリウス協会



平成21年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動特別推進事業)

“世界屈指の絆” 藤岡幸夫&関西フィル―「東京特別演奏会」に寄せて

世界中のオーケストラで、指揮者と楽団の関係が希薄になってはいないだろうか。短期間で指揮者が入れ替わる今の時代、指揮者がオーケストラの個性を特徴付けることは困難である。そんな中であって私たち関西フィルハーモニー管弦楽団は、指揮者の志向とオーケストラの持ち味が融合した個性的な取り組みとサウンドを目指してきた。常任指揮者・飯守泰次郎と取り組むオペラ・シリーズ、ドイツ・ロマン派の作品の数々。オーギュスタン・デュメイとの古典作品群への挑戦と成果。そして何より、首席指揮者・藤岡幸夫との日々が、これまでの関西フィルを形作ってきたことは疑いようのない事実だ。

私たち関西フィルと藤岡幸夫の出会いは1998年の定期演奏会に端を発する。その年と翌年と続けて定期演奏会に登場した藤岡は、音楽に生命を与え躍動的に響かせてみせる指揮者としての特性を観客と楽団員に刻印付けた。他に類例を見ない「指揮者とオーケストラ」の関係が始まった瞬間である。折りしも関西フィルは苦難の時期の最中。そこからの脱却を目指す楽団の情熱と藤岡の音楽性が符合し、2000年1月に正指揮者として彼を迎えることになる。

その当初から藤岡は「クラシック音楽は、“分かる、分からない”ではなく、“感じる、感じない”だ」を合言葉に、関西フィルと数々の公演を展開してきた。イギリスにおけるオーケストラが、観客にとって身近な存在であることを肌で感じている藤岡は、楽団と一体になって「クラシックの裾野」を広げるコンサートを始める。指揮者がマイクを持って語りかける演奏会シリーズ「Meet the Classic」である。これが「気軽にコンサートホールに足を運ぶ人達によって支えられるオーケストラ」を実践する布石となっていく。関西一円で展開する演奏会数も一時期の落ち込みを打破した。また藤岡とは吉松隆の新作初演を中心とした取り組みを率先して行なってきた。藤岡が登場する以前から邦人作曲家作品の紹介を担ってきた関西フィルの歴史を受け継ぐ形にもなった。「パウル・ザッヒャーの遺産」など、新機軸の演奏会シリーズの展開も実現。そして、藤岡との年40回近い密度の濃い共演の積み重ねが今まで続いてきた。

「Meet the Classic」で藤岡は作品の魅力と自分自身の感動体験を語る。また別の公演では、自ら“ライフワーク”と断言する吉松隆の作品の魅力を伝える。子どもたちとのワークショップでは音楽について純真に話し合い、ファンサイトに集うファンに向けて真摯に呼びかけ続ける。そしてステージから客席に向かって直接声を届ける藤岡幸夫。彼との関係が10年目を迎える今まで、関西フィルは藤岡幸夫の音楽性とキャラクターと共に「オーケストラ独自の顔」を浸透させてきたのである。

では藤岡幸夫の“音楽性”とは何だろうか。彼の指揮する自作「管弦楽のための協奏曲」に賛辞を贈ったルトスワフスキ。藤岡の「直感」に信頼を寄せる吉松隆。それら作曲家からの信頼を象徴する彼の言葉を紹介したい。「演奏が面白いとは言われたくない。



2000年4月29日
正指揮者就任後の「みどりの日」コンサート



クラシックの裾野を広げる「Meet the Classic」シリーズ



平日昼間の公演として人気の「梅田芸術劇場」シリーズ



2007年4月29日
首席指揮者就任披露公演

いい曲だったと言われたい」。自身の感動体験を純なままに観客に届けたいという真っ直ぐな態度こそ、彼の“音楽性”である。藤岡幸夫と関西フィルが一体化した時、彼の音楽はきっと特別な輝きを見せることだろう。作曲家と音楽だけがそこに在るような、稀有な瞬間が訪れることだろう。それはきっと、藤岡とでなければ実現できない“関西フィルらしさ”であり、その音楽を囲む人と人との出会いの場を暖かくする存在のはずだ。

そして今日、サントリーホールでの特別演奏会を迎える。藤岡と関西フィルでなければ実現できない音楽が、皆様の眼前に現れることを願って…。

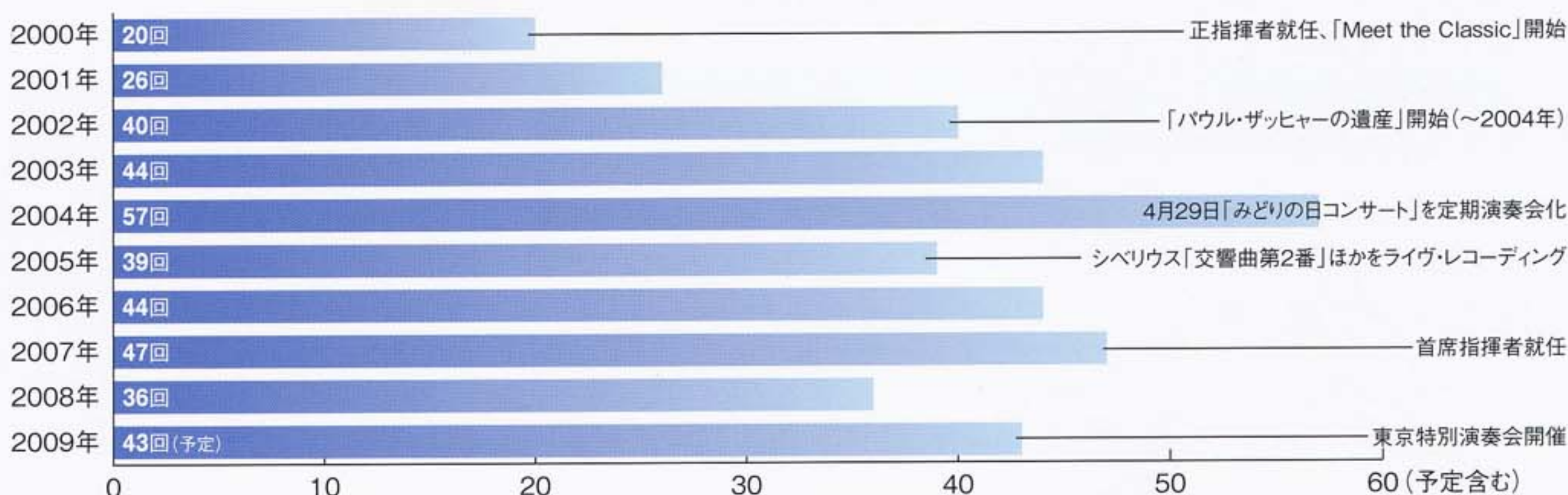


いづみホールでのリハーサル

特定非営利活動法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

藤岡幸夫と関西フィルの共演回数の推移

※オーケストラ公演のみ。弦楽アンサンブル等は含まない。



◆曲名 ◆日付 ◆公演名 ◆会場

藤岡幸夫と関西フィルがシベリウスの交響曲を取り上げた演奏履歴

交響曲第1番 ホ短調 作品39	2001年10月18日(木)	第147回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
	2007年3月16日(金)	Meet the Classic Vol.14	いづみホール
	2009年2月5日(木)	第208回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
交響曲第2番 二長調 作品43	2003年10月20日(月)	第159回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
	2005年8月20日(土)	Meet the Classic Vol.11	いづみホール
	2004年6月10日(木)	いづみホールシリーズ Vol.1	いづみホール
交響曲第5番 変ホ長調 作品82	2007年2月11日(日)	地方都市オーケストラ・フェスティバル	すみだトリフォニーホール
	2008年9月4日(木)	第205回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール

藤岡幸夫と関西フィルが吉松隆の作品を取り上げた演奏履歴

交響曲第3番 作品75 ※関西初演	2004年4月29日(木)	第163回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
交響曲第4番 作品82 ※世界初演	2001年5月29日(火)	オーケストラへの招待「世紀を越えた第4交響曲」	ザ・シンフォニーホール
ギター協奏曲「天馬効果(ヘガサス・エフェクト)」作品21 (ギター:福田 進一)	1999年11月5日(金)	第136回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
サクソフォン協奏曲「一角獣回路(ユニコーン・サーキット)」作品36 (サクソフォン:須川 展也) ※オリジナルはファゴット協奏曲、サクソフォン版世界初演	2002年11月28日(木)	第154回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
トロンボーン協奏曲「オリオン・マシン」作品55 (トロンボーン:箱山 芳樹)	1998年6月9日(火)	第127回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
チェロ協奏曲「ケンタウルス・ユニット」作品91 ※世界初演 (チェロ:ピーター・ディクソン)	2003年10月20日(月)	第159回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
ソプラノ・サクソフォン協奏曲「アルビレオ・モード」作品93 ※世界初演 (サクソフォン:須川 展也)	2005年4月29日(金)	第173回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
左手のためのピアノ協奏曲「ケフェウス・ノート」作品102 (ピアノ:舘野 泉) ※オリジナルは室内オーケストラ用、2管編成オーケストラ用の改訂版世界初演	2008年9月4日(木)	第205回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
鳥たちの祝祭への前奏曲 作品83 ※関西初演	2001年4月29日(日)	オーケストラへの招待「みどりの日コンサート」	ザ・シンフォニーホール
アストロボーイ/鉄腕アトム ※関西初演	2003年8月22日(金)	Meet the Classic Vol.7	いづみホール
鳥は静かに… 作品72	2009年2月5日(木)	第208回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
アトム・ハーツ・クラブ組曲第2番 作品79a ※関西初演	2003年11月24日(月)	Meet the Classic in KOBE Vol.3	神戸新聞松方ホール
鳥はふたたび… 作品81 ※日本初演	2001年10月18日(木)	第147回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール